

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	彩り-IRODORI-宜野湾教室		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		～ 令和 8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		～ 令和 8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	中・高生に特化した支援をしている。	自立に向けたプログラム、金銭管理、グループワーク、身だしなみ、討論会、SST、ロールプレイ等、様々な活動を提供している。	常に新しいことに目を向けて、社会で必要なことから、利用児童1人ひとりの個々に必要な支援までを、明確にし提供できるようにする。
2	子ども達の自主性と社会性を意識した支援プログラムを提供している。	事業所内での活動だけでなく、実際に公共交通機関を利用した移動や、買い物支援等、日常に必須な行動が取れる支援を多く提供している。 その他、協力企業先と連携しながら、職場体験を実施している。	事業所で決めたプログラムだけでなく、子ども達の自主性を尊重し、その意見や考えを追究プログラムに取り入れ、楽しみながら活動が出来るようにしていく。
3	利用児童の男女比率の差がかなり少なく、金曜日は女子だけの利用になっている。	男女比率の差がかなり少ないので、男女バランスの取れた関わりが持てる活動、支援が提供できる。 また金曜日は、女子だけの利用になっており、情勢に特化した活動や支援が提供できている。	人との関わり、利用児童の自立に向け、事業所内外での活動を組み合わせ、充実した支援が提供できている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の経験値が少ないため、一貫した支援が提供できていない。	児童と関わる中で、どのように対応したらいいかわからず、児童のペースになり、本来のすべき支援が出来ない事がある。	児童の特性や性格を理解し、気持ちも汲み取りながら、メリハリを付け、児童1人ひとりが納得できるよう声掛けして活動に促していく。
2	職員の報告、連絡、相談、その場の状況判断力が弱い。	忙しく動いていて、支援に関する報告や連絡、相談が出来ず、上手く活動の進行や支援ができない時がある。	職員研修や、定期的に話し合いの場を設け、全職員が同じ判断ができるよう努めていく。
3	利用児童の欠席が多い。	中・高生の利用児童であり、自分で考え、行動できる子が多く、保護者も児童の意見を尊重することが多いため、欠席につながっている。	事業所内外での沢山の活動があるが、利用児童がもっと興味が湧く活動、支援をつくり利用につなげていく。